

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立白沢小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 36 人

② 算数 36 人

5 留意事項

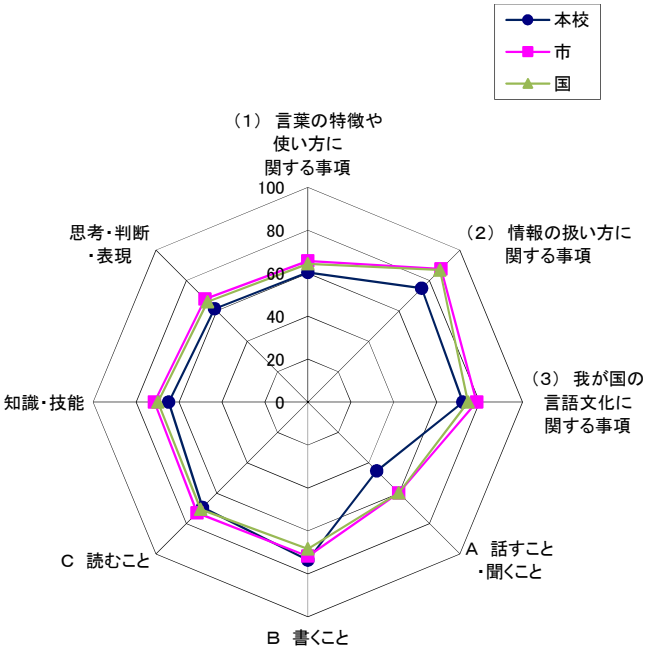
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立白沢小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	60.4	65.7	64.4
	(2) 情報の扱いに関する事項	75.0	87.6	86.9
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	72.2	78.6	74.6
	A 話すこと・聞くこと	45.4	59.9	59.8
	B 書くこと	73.6	71.8	68.4
	C 読むこと	69.4	72.9	70.7
観点	知識・技能	64.8	71.5	69.8
	思考・判断・表現	61.5	67.8	66.0
	主体的に学習に取り組む態度			



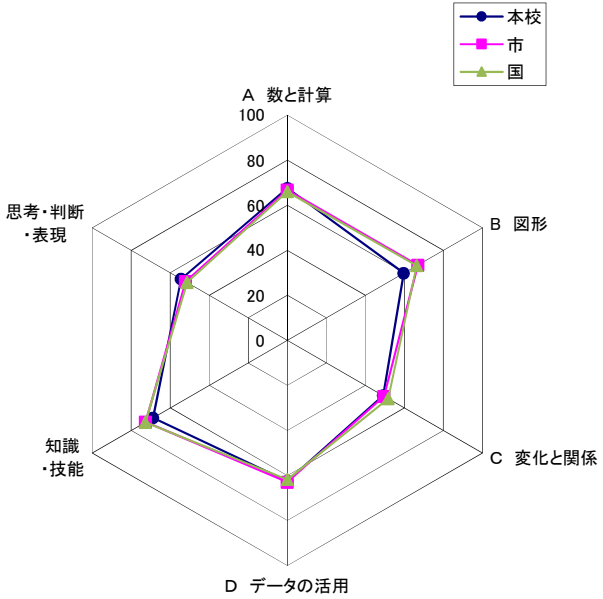
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	平均正答率は60.4%で、国の平均より低い。 ○文の中における主語と述語の関係を捉えることができるかどうかをみる設問の正答率は63.9%で、国の平均をやや上回ったものの、県よりはやや下回った。 ●漢字を文の中で正しく使う設問2問のうち1問の正答率は27.8%で、国の平均よりかなり低い。 ●話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができるかどうかをみる設問の正答率は66.7%で、国の平均より9.2ポイント低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・小テストやAIDリルを活用し、正しい漢字が習得できるように継続的に取り組む。 ・文章の意図を正しく理解し、同音異義語を正しく書くことができるように指導する。 ・語彙力を高めるために、新出語を使って短文作りをしたり、意味調べの機会を多くとるようにしたりする。
(2) 情報の扱いに関する事項	平均正答率は75.0%で、国の平均より低い。 ●情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる設問の正答率は75.0%で、国の平均より11.9ポイント低い。	・因果関係を正しく捉えることができるよう、物事の原因と結果をつなげて考えることができるような説明文の読み取り方について、国語の授業の中で継続的に指導していく。 ・本や新聞、雑誌、インターネットなど様々なメディアから情報を得る際は、目的に応じて中心となる語や文を捉え、必要な情報を見つけ、正しく読み取る能力を育成していく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は72.2%で、国の平均より低い。 ●日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができるかどうかをみる設問の正答率は72.2%で、国の平均より2.4ポイント低い。	・読書をする時間を設け、本に親しむ機会を作るとともに、本の世界に浸り、本を読む楽しさに気付かせるよう働きかけていく。 ・おすすめの本の紹介や読書週間を利用して、いろいろなジャンルの本に親しむようにさせたり、読書への関心を高めたりするように支援する。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は45.4%で、国の平均より低い。 ●資料を活用するなどして自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる設問の正答率は33.3%で、国の平均より19.6ポイント低い。 ●目的や意図に応じて集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる設問の正答率は44.4%で、国の平均より19.4ポイント低い。	・話の要点や話し手の意図に気を付けながら聞き取ることができるよう、今後も、国語や学級活動の話合いの場など、またはそれ以外の教科の授業の中でも指導していく。 ・日常的にスピーチをする機会を設けることで、相手の話をよく聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめ、表現する力を育成していく。
B 書くこと	平均正答率は73.6%で、国の平均より高い。 ○目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる設問の正答率は69.4%で、国の平均より12.8ポイント高い。	・書き手にどのような意図があるか、またどのような考えをもっているかを読み取れるよう、国語の教材文を通して読解力を高めていくことを引き続き行っていく。 ・図表やグラフなどの資料を読み取り、まとめて書く活動を取り入れていく。
C 読むこと	平均正答率は69.4%で、国の平均より低い。 ○人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかをみる設問の正答率は80.6%で、国の平均より8.0ポイント高い。 ●登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるかどうかをみる設問の正答率は55.6%で、国の平均より10.6ポイント低い。	・物語文を読む時には、描写表現に着目させ、その表現からどんなことが分かるのか考えさせる活動を多く取り入れる。 ・自分の考えを書くことに抵抗感をもつ児童が多いので、授業の振り返りや日記などを書く機会を増やし、短文から自分の考えを表現する機会を多く設ける。また、よい考えや文章を紹介することで、書くことに自信をもたせていきたい。

宇都宮市立白沢小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況
【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	67.6	66.7	66.0
	B 図形	59.7	66.9	66.3
	C 測定			
	C 変化と関係	49.1	49.6	51.7
	D データの活用	62.5	62.9	61.8
観点	知識・技能	68.8	72.6	72.8
	思考・判断・表現	54.4	52.2	51.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は67.6%で、国の平均より1.6ポイント高い。 ○「三桁×一桁の乗法を基に、三桁×二桁の積の求め方とその答えを書く」問題は、国の平均より26.4ポイント高い。 ○整数÷小数の計算は、国の平均より5.9ポイント高い。 ●問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかをみる問題は、国の平均より14.9ポイント低い。 ●数量の関係を、□を用いた式に表すことができるかどうかをみる問題も、国の平均より2.4ポイント低い。	・文章問題の意味を理解しやすくしたり、数量の関係を捉えやすくしたりするために、図や数直線に表す活動を引き続き行っていく。 ・四則演算や数字、□の表す意味を一人一人が自分の言葉で表せられるような学習活動を取り入れ、問題場面にあった立式ができ、課題を解決するための力の定着を図る。
B 図形	平均正答率は59.7%で、国の平均より6.6ポイント低い。 ○「五角柱の面の数を書き、そのわけを底面と側面に着目して書く」問題は、国の平均より5.8ポイント高い。 ●直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解しているかどうかをみる問題では、国の平均より21.3ポイント低い。 ●球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる問題では、国の平均より8.7ポイント低い。	・立体の様子が頭の中でイメージしやすいように、実物を提示したり、自分で立体を作ってみたり、展開してみたりするなどの体験活動を取り入れる。 ・一人一台端末を利用して、図形のつくりなどの動画を見たり、画面上で操作して様々な立体を組み立てたりする。 ・円の直径や円周、円周率の関係、体積の求め方など、基礎基本の力を定着させるために、課題解決の過程でその都度復習する時間を設ける。
C 変化と関係	平均正答率は49.1%で、国の平均より2.6ポイント低い。 ○速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できるかどうかをみる問題では、国の平均より5.0ポイント高い。 ●道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題では、国の平均より3.2ポイント低い。 ●速さの意味について理解しているかどうかをみる問題では、国の平均より9.7ポイント低い。	・文章問題に出てくる数字が何を表しているのか理解しやすくするために、図や数直線、言葉で表す学習活動をさらに意識して取り入れる。 ・時速、分速、秒速がどういう意味を表しているのか、身近な乗り物の速さで示したり、時間の単位について復習したりして、速さの理解を深めていく。
D データの活用	平均正答率は62.5%で、国の平均より0.7ポイント高い。 ○円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができるかどうかをみる問題では、国の平均より8.1ポイント高い。 ○折れ線グラフから数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる問題では、国の平均より3.2ポイント高い。 ●示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できるかどうかをみる問題では、国の平均より7.6ポイント低い。	・今後も、グラフや表などから、必要としているデータの読み取り方など基本的な技能や知識の定着を図る授業を継続する。 ・課題を解決するために、「まず何を、次に何を、だからこうなる」というように順番に考えていく学習活動を多く取り入れる。 ・自分の意見をもち、友達と話し合う活動を取り入れ、そのように考えたり、判断したりした根拠が持てるようになる。

宇都宮市立白沢小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「朝食を毎日食べている」と肯定的回答した児童の割合が97.4%で、全国平均よりも3.7ポイント高い。「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」の肯定的回答をした児童は92.1%で全国平均よりも9.2ポイント高い。また、「毎日、同じくらいの時刻に起きている」の割合は92.1%で、全国平均より高い。家庭での生活習慣が身に付いている様子が見られた。今後も、規則正しい生活習慣を意識して継続できるように指導にあたる。

○「人が困っているときは、進んで助けている」と肯定的回答をした児童の割合は100%であった。今後も、学級での生活、クラブや委員会活動、縦割り班活動などの様々な場面において、周りを見て自分から進んで行動できるよう、見守ったり言葉かけ（助言や称賛）をしていきたい。

○「自分には、よいところがあると思う」と肯定的回答をした児童の割合は、92.1%であった。また、「先生は良いところを認めてくれている」と肯定的回答をした児童の割合は、97.4%であった。自己肯定感が高い児童が多いことがうかがえる。今後も学校生活の中で、児童のよさを認め、伸ばしていく指導を心掛けたい。

○国語について「大切」「内容がよく分かる」「将来役に立つ」と肯定的回答をした児童の割合が多く、国語の学習に前向きに取り組んでいることがわかる。今後も、児童が「分かる」授業、生活の中で活かすことができる授業づくりを行っていく。

●算数について、「大切」「内容がよく分かる」「将来役に立つ」と肯定的回答をした児童の割合は、どれも全国平均を上回っている。しかし「算数の勉強は好きですか」の肯定的回答は47.3%と、全国平均を13.7ポイント低い。児童が算数の魅力や楽しさを感じられるような授業づくりを心がけていきたい。

●ICT機器について「楽しい」「分からないことがあったらすぐ調べることができる」「友達と協力しながら学習を進めることができる」などの質問については肯定的回答が9割を超えている。しかし、「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」の肯定的回答は39.5%と、全国平均を20ポイント低い。このことから、児童はもっとICTについて知りたい、学びたいと思っていると考えられる。授業中にICT機器をもっと積極的に活用していきたい。

宇都宮市立白沢小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学び合い活動の充実・言語活動の質的向上	全ての学年・クラスで、発達段階や場面に合わせて、ペア・トリプル・グループの話し合い活動を多く取り入れ、表現の仕方を指導している。	「書くこと」の領域で国の平均を上回った。記述式の問題形式の平均正答率でも、国の平均を上回った。目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかの設問で国の平均を上回った。国語も算数も記述式の設問で、国の平均を上回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「話すこと」の領域で国の平均を大きく下回った。	・主体的・対話的な授業展開 ・読書指導・朝の学習の時間の充実	語彙力を高めるために、週に一回、朝学「言葉の時間」を設定し、言葉遊びや試写、暗唱、短文作りなど、様々な言葉や文章に触れる機会を設ける。また、児童の読書意欲を高めるために、図書室に推薦図書コーナーの設置したり読書記録をつけたりする。各教科で、対話によって考えを広げたり深めたりしていく授業展開をする。